



▲国内で唯一現存する菅谷たたら(雲南市)で、4月25日に記念セレモニーが開催されました。

### 安来のルーツはたたら

安来市の産業や経済、歴史、地理、さらには安来節などの文化に深く関わってきた「たたら製鉄」。古来、多くの鉄を生産し、街道を通じて集められ、安来港から全国に出荷されました。安来市のルーツに大きく関わっているのがたたら製

鉄です。4月25日、安来市・雲南市・奥出雲町内のたたら関連の文化財群が、文化庁より日本遺産に認定されました。県内では2番目、国内でも37カ所の内の一つです。

### 国内外への情報発信

日本遺産は平成27年度に創設された制度。単なる歴史や文化の保存や解説をする制度ではありません。地域にある関連文化財や文化、景観を、物語風(ストーリー)にパッケージ化し、総合的かつ効果的に活用していくものです。これにはこの制

度の大きな目的の一つが関わっています。現在、日本への外国人観光客が急増しています。東京や大阪など、一部の地域に偏っています。この制度では、この旅行者と地域を結びつけることが期待されています。彼らは、各地特有の文化に興味があります。これらを伝えるには、連続と受け継がれてきた文化や風土等を物語風に伝える必要があります。この取り組みを進めるのが日本遺産です。

### 鉄づくり千年の物語

今回、二市一町で申請

した内容(抜粋)は次のとおりです。日本古来の「たたら製鉄」で繁栄した出雲の地では、今日もなお世界で唯一たたらが燃え続けている。たたらは鉄の生産だけでなく、原料砂鉄の採取跡地を拡大な稲田に再生し、燃料の木炭山林を永続的に循環利用するという、人と自然と共生する持続可能な産業として日本を支えてきた。また、鉄の流通は各地の文物をもたらし、華やかな地域文化をも育んだ。今もこの地は、神代の時代から先人たちが刻んできた鉄づくり千年の

物語が終わることなく紡がれている。この中で、安来

市内の構成文化財は、金屋子神社・西比田の町・たたら製鉄用具(和銅博物館所蔵)・玉鋼縁起(同)・安来港と安来の街並み・民謡安来節・卜藏新田・飯梨川と赤江の新田開発です。今後は、これらの文化財をはじめ周辺の観光素材も関連付けながら国内外に情報発信していきます。また、引き続き二市一町で連携しながら、鉄の文化を今に伝え、未来に生かしていく取り組みを進めていきます。

# 祝 ● 日本遺産決定

## 出雲國たたら風土記(鉄づくり千年が生んだ物語)

安来市・雲南市・奥出雲町で文化庁に申請していたたたら製鉄文化財群が四月二十五日、日本遺産に認定されました。広域連携で資源を活かした地域づくり・活性化に取り組みます。





①



②



③



④



⑤



⑥



⑦

▲今回、登録対象となった文化財の一部 ①鉄穴（かな）流しの影響を受けた「飯梨川と赤江の新田開発」  
②鉄の総本宮「金屋子神社」 ③安来出身の画家松本春々が制作した「たたら絵巻：玉鋼縁起」（部分） ④和鋼  
博物館に収蔵される「たたら製鉄用具」 ⑤各地との盛んな交易から生まれた「民謡安来節」 ⑥雲南市にある菅  
谷たたらと山内 ⑦奥出雲町の玉鋼製造伝承 ※「」内は文化財の名称

### 日本遺産（Japan Heritage）とは

「日本遺産」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

